

市営亀塚第一住宅用地を活用した 地方創生の取組について

平成29年2月18日
岩沼市

岩沼市まち・ひと・しごと創生総合戦略

ちさんちしょう

～岩沼で生まれ・育ち・生きる（生きる）「地産地生」のまちづくり～

■まち・ひと・しごと創生とは

○今後予想される長期的な人口減少について、地域の特性を活かしながら活力ある社会を維持するための全国的な取組み。

■なぜ、まち・ひと・しごと創生か

- 人口が減少すると、経済活動に大きな影響。
- 身近な地域社会のあり方にも大きな影響。

■「地産地生（ちさんちしょう）」とは

- 岩沼で生まれた「ひと」や岩沼で暮らす「ひと」
- 岩沼で「しごと」をする人など
- 岩沼に縁がある「ひと」を育み
- これらの「ひと」が輝いて生きる（生きる）
- そういった岩沼らしい「まち」を形成



岩沼市マスコットキャラクター「岩沼係長」

人口の現状と今後の予測

2015年9月末現在：44,256人

25年後（2040年）：39,177人

45年後（2060年）：32,346人

高齢化率(65歳以上が占める割合)は37.1%

※45年前（1970年）の総人口は29,822人。



※資料：『国勢調査』、『住民基本台帳』、国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』

目標人口

25年後(2040年)に40,000人を維持

- 2040年(H52)：約40,100人
- 2060年(H72)：約34,200人

人口減少を抑制するための将来の方向

①しごとづくり

- 交通の要衝である立地特性を活かした「しごとづくり」

②ひとづくり

- 岩沼の魅力を的確かつ効果的に伝えるイメージアップ
- 新しい岩沼の担い手育成などによる「ひとづくり」

③まちづくり

- 岩沼に住み続けたい、移住したいと思える「まちづくり」

④市民がつくる「まち・ひと・しごと」

- 市民が主体となり、地域と地域が連携して課題を解決し、地域の価値を高められるよう地域力の向上に取り組む。

25年後(2040年)、45年後(2060年)も輝く岩沼へ

岩沼で生まれ・育ち・生きる（生きる）「^{ちさんちしょう}地産地生」のまちづくり



岩沼で家族になろう！

- ◆ 結婚・出産への支援
- ◆ 地域の中での子ども・子育て支援の充実
- ◆ 学校を核とした教育機会の充実 など

魅力を伝えよう！ 岩沼で暮らそう！

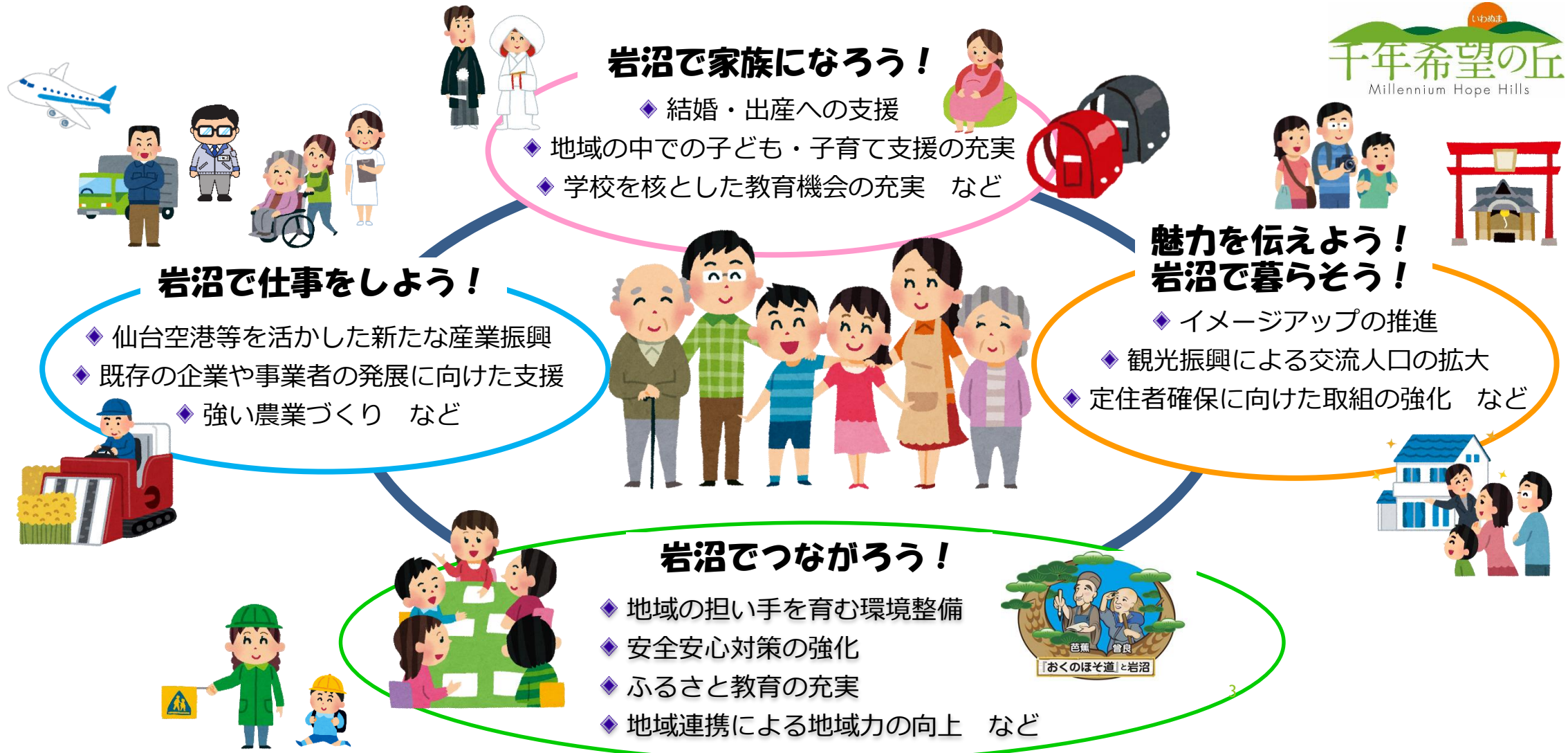
- ◆ イメージアップの推進
- ◆ 観光振興による交流人口の拡大
- ◆ 定住者確保に向けた取組の強化 など

岩沼でつながろう！

- ◆ 地域の担い手を育む環境整備
- ◆ 安全安心対策の強化
- ◆ ふるさと教育の充実
- ◆ 地域連携による地域力の向上 など

岩沼で仕事をしよう！

- ◆ 仙台空港等を活かした新たな産業振興
- ◆ 既存の企業や事業者の発展に向けた支援
- ◆ 強い農業づくり など





東日本大震災の復興から地方創生へ

地方創生へ

- 本市では、今後予想される人口減少の対策のため、平成27年10月に策定した『岩沼市まち・ひと・しごと創生総合戦略～岩沼で生まれ・育ち生きる（生きる）～「地産地生」のまちづくり～』に基づき、地方創生の取組を行っております。
- 国の地方創生関連の交付金などを活用して、市の全域において魅力あふれる地方創生の実現に取り組みます。

平成28年度の取組

- 震災復興を引き続き進めるとともに地方創生へ展開
市全域の均衡ある発展、安心・安全なまちづくりを目指して、平成28年度は、震災からの復興を最優先としつつ、総合戦略に基づく各種取組を着実に推進し、いわぬま未来構想の具現化を目指します。
- 地方創生の推進に向けて
国の地方創生加速化交付金を活用し、魅力あふれる「まち」づくり、「ひと」を創り育てる取組等により地方創生を推進します。
 - ◆ 将来、ふるさと岩沼に愛着を持った岩沼の中核を担う人材育成
 - ◆ 地域特性を活かした産業・観光づくり
 - ◆ 多世代が交流し、誰もが生涯活躍できる場の創出
 - ◆ 近隣自治体との広域連携による誘客促進

岩沼市マスコットキャラクター
岩沼係長



交付金活用事業

岩沼版：みんなで輝く「まち・ひと・しごと」づくりプロジェクト

2040年、2060年に岩沼市の中核となる担い手の育成
地域特性を踏まえた産業・観光の魅力発信 等

IWANUMA WAY 岩沼版生涯活躍のまちプロジェクト

災害危険区域における多世代交流・コミュニティ活性化拠点整備
高齢者や障害者の方々のワークシェア 等

広域連携

みやぎ「県南浜街道」誘客促進事業

名巨地場産業振興協議会（名取市、岩沼市、巨理町、山元町で構成）による地域ブランド創出事業

※事務局 H27～H28岩沼市、H29～H30名取市

公益社団法人青年海外協力協会と連携し 生きがいづくりや地域コミュニティづくりを推進

平成27年8月7日 公益社団法人青年海外協力協会（JOCA）と
「岩沼市まち・ひと・しごと創生に関する協定書」を締結

市内の地域資源や既存ストックの活用を図りながら、

- ① 多世代が交流し、地域経済の活性化に繋がる新しい地域社会の拠点づくり
- ② 住民との協働により、生きがいづくりや地域コミュニティづくり
に取り組みます。

青年海外協力協会・岩沼市



JOCAがもつ
人材やまちづくりの経験
を活かして

公益社団法人青年海外協力協会（JOCA）とは

- 青年海外協力協会は、開発途上国の人々のために自分の持つ技術や経験を生かし活動してきた青年海外協力隊の帰国隊員を中心に組織されている内閣府認定の公益社団法人です。
- 東日本大震災の際には、岩沼市に震災直後より災害救援専門ボランティアを派遣し、医療支援や支援物資管理、拾得物管理などの支援に当たってきました。
- 平成23年6月より「仮設住宅サポートセンターとの運営に関する協定」を締結し、被災者の孤立化防止や心のケア、地域コミュニティの再生に向けた支援に取り組んでおり、また、平成28年4月より「やすらぎの里」等の障害者福祉施設の指定管理者を受託し運営を行っています。



岩沼版「生涯活躍のまち」に向けたプロジェクトの提案

提案をうけた岩沼版「生涯活躍のまち」基本的な考え方

高齢者も障害者も子育て世代も皆が支え合い、生きがいを持ち、生涯活躍できるまち

温泉・カフェ／交流拠点

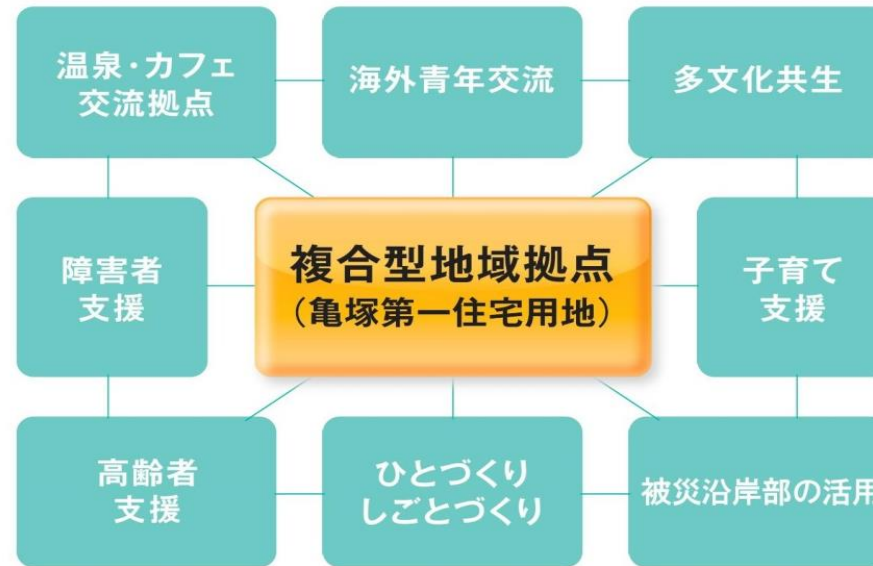
温泉やカフェを中心に、市民が集う場を創出。地域に開かれたオープンスペースとして賑わいをつくる

障害者支援／高齢者支援

多様な人とのかかわりを通して、地域の中において活躍できる場を創出

ひとづくり／しごとづくり

多様な価値観を持つ人が集う場を作ること、新しい視点で地域産業の掘り起しを目指す



海外青年交流／多文化共生

海外からの研修生や留学生を積極的に招致。こども達が多様な文化・価値観にふれることで世界を知り、国際感覚を養う。グローバルな人材を育て、岩沼から世界を元気にする

子育て支援

保育園や子育て支援センター等の運営を通して、地域の中で安心して子育てができる環境づくりを進める

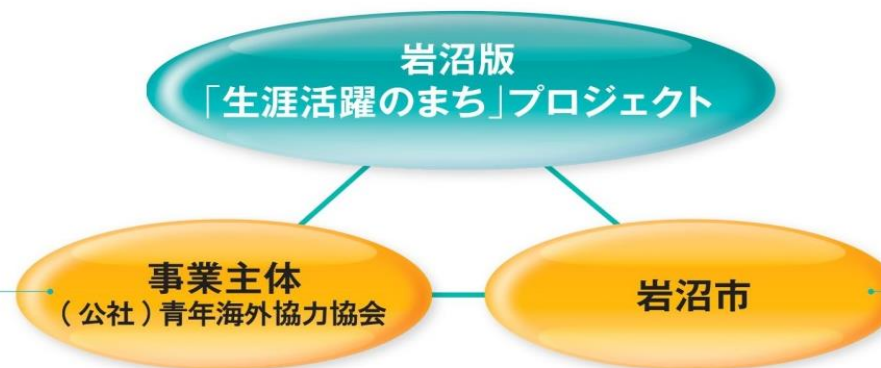
被災沿岸部の活用

千年希望の丘がある沿岸部において農園や牧場を運営。福祉事業の場として活用すると共に、世代を超えた交流活動や生きがいづくりを行う場として再生する

プロジェクトの推進主体

プロジェクト推進の中核として帰国隊員が参画

●福祉、教育文化、農業、地域振興など、様々な分野で海外で活動した経験を活かし、分野を超越した人材とプログラムを提供することで、街づくり・人づくりを推進



岩沼市が主体となって魅力あふれる「まち・ひと・しごと」づくりを实践

●市民、企業、各種団体、行政がそれぞれの役割を踏まえつつ、共に連携、協力しながら、魅力あるまち、地域、人を創り育てる取り組みを推進

市営亀塚第一住宅用地の近隣施設等の考え方

市営亀塚第一住宅用地（拠点施設の候補地）の近隣には、相の原保育所や亀塚保育所、公設小売市場跡地が所在しています。

- ・岩沼市公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化が進行している保育所については、「生涯活躍のまちプロジェクト」の検討とあわせて再編等の検討をしていきます。
- ・公設小売市場跡地においては、市民による検討委員会を設置し、市民活動の拠点の形成を検討しております。

●市営亀塚第一住宅用地（昭和46年～48年築）



●公設小売市場跡地



●相の原保育所（昭和52年築）



●亀塚保育所（昭和49年築）

